



すびっこ 美術館

とうがい村松宿こども園
星 遙叶はるとくん



3階建ての家

サンタさんのプレゼントを入れるブーツに、3階建ての大きなお家を描いてくれたのは遙叶くん(6歳)。「雪が降ったら雪だるまをつくるんだ」と元気に話してくれた遙叶くんですが、今はゲームに夢中なんだそうです。

ぼくの夢 わたしの夢



夢は…。 “立派な大人になること”

舟石川小学校6年 ●伊里ひなた

私の将来の夢は、立派な大人になることです。

私のお母さんは、立派な大人だと思います。私が家族と一緒に遊園地へ遊びに行ったとき、小さな女の子が泣いていました。そのとき、お母さんは「どうしたの?」と、優しく声を掛けてあげていました。

それを見て私は、すごいな、立派な大人だなと思ったので、私は立派な大人になることが夢です。

立派な大人になるために、今まで私は何もしてきませんでしたが、これからはお母さんや、いろいろな人の手伝いをしたり、人助けをしたり、進んで活動することも大切だと思います。今は子どもですが、みんなに尊敬してもらえれば、立派な大人になることにつながると思います。

これから私は、人を進んで助けたり、いろいろな人の手伝いをしながら、立派な大人になることにつながることをしていきたいと思っています。

成人のインタビュー

表紙・若松大貴

今回は、新成人の皆さんをお祝いする企画として「2016東海村成人の集い」実行委員会実行委員長の、若松大貴さんにインタビューしました。

——自己紹介をお願いします。

私は舟石川小学校、東海南中学校を経て、現在は村内の株式会社関東技研で勤務をしています。

——この20年間を振り返って:

子どものころから空手に専念する中で、礼儀作法を学ぶことができました。この経験は、社会に出てからとても役に立っていると思います。

また、高校時代のハワイ遠洋航海実習では、3か月間、船の上で漁や船のメンテナンス、食事当番などを交代で行いながら、自由が全くない生活を送るといって、過酷な経験もしました。これらの経験を経ることで、辛いことを乗り越える忍耐力も身に付けることができましたと思います。

——成人を迎えての感想は?

私の祖母は着付けの先生をしているので、今回のはかまのコーディネートと着付けを、全て祖母にお願いしました。祖母にとって

も、私にとっても、今回の晴れ姿は、とても良い思い出となりました。

成人した実感というのはまだありませんが、これからは自分自身の行動に責任を持ちながら、社会に貢献できる大人になっていきたいと思っています。

——ご家族に対して一言。

私の両親は、私が興味を持つことに対して、すぐに「ダメ」とは言わず、それが良いことなのか悪いことなのか、「自分自身で経験してみても、判断しなさい」と教育してくれました。今まで数え切れないほど迷惑を掛けましたが、やりたいことをやらせてもらって、感謝しています。

——これからの夢や抱負は?

今はまだ社会人2年目なので、夢というよりも具体的な目標として、仕事で必要となる技術を磨き、早く一人前の職人として認められるように、まい進していきたいと思っています。

——今後のご活躍を期待しています。がんばってください!

